2009 ミニ・ディスクロージャー

見てわかる“しんきん”

新庄信用金庫ステンドグラス「北の春」は、当金庫の本店新築時に郷土出身の洋画家、近岡善次郎画伯の原画・監修によって創作されたものです。

「北国に春が来て、遠山にまだ雪が残っているのに梅、桃、桜が同時に咲き出し、少し遅れてサクランボの緑がかった白い花が咲く、それが雪のやっと消えたかげろうのたなびく野を埋める。働く人も春の野に出ることは喜びである。春風を胸いっぱいに吸って、本当に生きている喜びを味わう。この気持ちの良さは、東北生まれの私にとって最高の喜びとして一生忘れず思い続けることだろう。」

基　本　方　針

○郷土の繁栄に心から奉仕する

○内容の堅実な金庫にする

○和顔愛語に満ちた
　　明朗な庫風を創る

○待遇の優れた金庫にする

ごあいさつ

皆様には、平素より私ども信用金庫をお引立ていただきまして、誠にありがとうございます。

この「2009年度報　ミニ・ディスクロージャー誌」は当金庫第90期（平成20年度）の決算の状況と事業の概況をご報告するとともに、当金庫の内容等をわかりやすくご説明申し上げるために作成いたしました。ぜひ、ご一読いただきますようお願い申し上げます。

米国発の金融証券市場の混迷が昨年９月のリーマン・ブラザーズ社の破綻以降に世界的な金融危機へと拡大し、市場はいわばパニック状態となりました。特に証券化商品市場が事実上機能不全に陥ったことに加え、世界同時株安、信用スプレッドの拡大によるクレジット市場の混乱など、わが国を巡る金融環境は大幅に悪化し、先行き不透明な状況が続いております。このような市場の低迷が実体経済にも波及し、輸出の大幅な減少に加え企業業績や雇用情勢が悪化するなど、急速に景気後退の様相を呈しております。

一方、地区内景況においては、依然として中央との経済格差が拡大傾向にあり、取引先の多くを占める小規模企業においては、今般の世界的な景気後退の影響も大きく、引き続き低迷する地域経済の中で大変に厳しい経営を余儀なくされており、廃業に追い込まれる企業も増加しております。

以上のように厳しい経営環境、市場動向のもと、今期の業績は次のとおりとなりました。

期末の預金残高は個人・法人ともに流動性預金が大幅に増加したことから全体で５６，４３７百万円となり、前期比８２０百万円（増加率１，４７％）の増加となりました。

また、貸出金は個人向需要が減少しましたが、景気後退を反映した法人の資金需要が多く、前期比５４６百万円（増加率１，３７％）増の４０，１８３百万円の残高となりました。

一般企業の売上高に相当する経常収益は、有価証券運用収益の減少により前期比９１百万円減の１，７７０百万円となりましたが、それ以外の貸出金利息収入や各種手数料などの主要収益は順調に増加いたしました。

一方、経常費用は、金融証券市場の大暴落により保有する株式、投資信託等の時価が大幅に下落し、８４９百万円の減損処理を余儀なくされたことから９２７百万円増加しました。この結果、当期純損失９５３百万円という創業以来初めての赤字決算となりました。なお、自己資本比率については、前期より０．３７ポイント低下し、１０．０３％となりました。

仮に、このような市場の暴落がなく減損処理する事態になっていない前提で試算すれば、当期純利益は１５０百万円超と推計され、市況が回復基調にあることなどから次期につきましては、当期純利益１００百万円程度を見込んでおります。

当地域では今後とも厳しい経済環境が続くものと予想されますが、地元になくてはならない信用金庫でありつづける為に、「**お客様との共生、地域との共生**」を旗印に、信頼に値する健全性と強じんな経営基盤の確立を図りながら、個人・法人にかかわらず取引先の増加に努め、地元で集めた預金は地元への貸出で還元するという金融の地産地消を進め、地元経済の活性化につなげたいと考えています。

今後とも、皆様の一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年８月

理事長　井上　洋一郎

Q1 決算の状況について

A ２０年度決算では、２５８百万円のコア業務純益（本業での利益）を計上しましたが、経常費用につきまして、金融証券市場の大暴落により、保有する株式、投資信託等の時価が大幅に下落したため、８４９百万円の減損処理を余儀なくされたことから、９２７百万円増加しました。この結果、当期純損失９５３百万円という創業以来初めての赤字決算となりました。

●資産内容の健全化を第一に考えました。

地域経済において、中小企業は中央との格差拡大が続いており、金融機関は全般的に、貸出金を中心とした効率的な資金運用が難しく、収益環境は厳しさを増しております。

平成２１年３月末の業容は、預金残高５６４億円（前年比１．４％増）、貸出金残高４０１億円（前年比１．３％増）となりました。

（百万円）

	平成18年度 第88期	平成19年度 第89期	平成20年度 第90期
出資総額	208	208	208
業務純益	660	421	△670
コア業務純益	545	409	258
経常利益	70	93	△926
当期純利益	45	19	△953

〈しんきん〉のコストパフォーマンス

当金庫のオーバーヘッドレシオ（OHR）は、１８年度は６６．０％、１９年度は７３．６％、２０年度は８２．２％となっております。経営合理化・効率化の指標としてよく使われるOHRは、「コア業務粗利益をあげるためにどれくらいの経費を使ったか？」を比率で示したもの。つまり、当金庫は１００円の粗利益をあげるために使う経費が、６６円→７３円→８２円と推移しております。２０年度に比率が上昇したのは、有価証券の減損や退職給付費用の増加によるものであり、今後、ムダのないスリムな経営を目指してまいります。

預金・貸出金の推移

●預金残高の推移

（億円）

	平成17年3月末	平成18年3月末	平成19年3月末	平成20年3月末	平成21年3月末
個人預金	470	468	464	481	482
法人預金	86	81	79	74	81
預金残高合計	556	549	543	556	564

個人・法人とも流動性預金が増加したことから、期末残高５６４億円、前期比８億円（増加率１．４７％）増となりました。

●貸出金・代理貸付残高の推移

（億円）

	平成17年3月末	平成18年3月末	平成19年3月末	平成20年3月末	平成21年3月末
貸出金残高	398	400	401	396	401
代理貸付残高	40	37	38	36	29
合　計	439	438	440	432	431

個人向需要が減少しましたが、国の緊急保証制度をフルに活用した円滑な資金提供に努めた結果、貸出金期末残高４０１億円、前期比５億円（増加率１．３７％）増となり、最終的には、代理貸付を含め４３１億円となりました。

Q2 自己資本比率について

A １０.０３%と１０%台の水準を維持。「健全で問題のない金融機関」の国内基準を大きく上回る水準となっています。

●新ＢＩＳ規制について

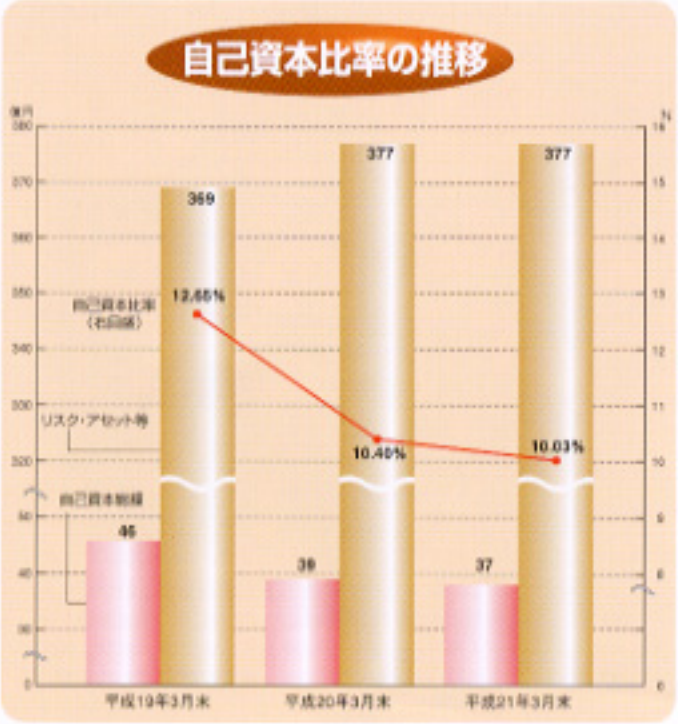
従来、自己資本比率は、自己資本の総額を分子とし、貸出金等の資産総額を分母として計算されてきましたが、近年の金融技術の進展等により、金融機関の抱えているリスクも一段と多様化・複雑化していることから、平成１９年３月期より、新ＢＩＳ規制が導入されました。新ＢＩＳ規制では、自己資本比率を算出する際分母において信用リスク・アセットに加え、「オペレーショナル・リスク相当額を８%で割って得た額」を計上しております。オペレーショナル・リスクとは、システム障害や不祥事、事務ミス等によって被るリスクのことです。その相当額の計算に当たっては「基礎的手法」を当金庫で採用し、１年間の粗利益に１５%を乗じた額の直近３年間の平均値を用いております。また、信用リスク・アセットの計算に当たっては「標準的手法」を採用しております。ここでは、従来よりも精緻化された資産項目の所定のリスク・ウェイト（損失が発生する危険度に応じた掛け目）を用いて、より細かく算出しております。

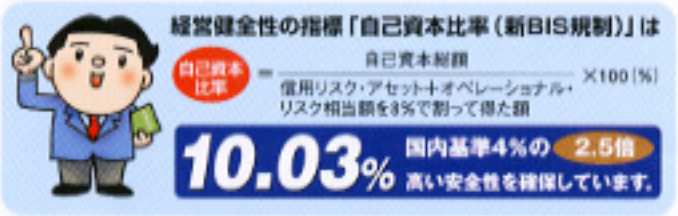
●自己資本比率は金融機関の安全性を示す判断指標のひとつです。

自己資本比率は金融機関の安全性・健全性を示す指標のひとつで、資産に対する自己資本（出資金・利益準備金・積立金など）の割合、つまり「いざというときの備えの水準」を表しています。信用金庫のように国内のみで営業活動を行う金融機関については４%あれば経営体質が健全であると判断されています。

●自己資本比率は１０.０３%と１０%台を維持。「健全で問題のない金融機関」の国内基準を大きく上回る水準です。

当金庫は経営の健全性向上のために、自己資本の充実を重点課題のひとつとして、毎年の収益の中から、安定した内部留保の蓄積を行ってまいりました。２０年度はＱ１でもご説明いたしましたとおり、資産内容の一層の健全化を図るため、償却・引当処理を行い、自己資本比率は１０.０３%と国内基準である４%を大きく上回り、健全性を保持しております。





Q3 不良債権の状況について

A 従来にも増して厳格にルールを守り、適正な処理を行っています。

●積極的な不良債権処理を行っています。

金融機関は、企業の運転資金や設備資金、また個人のお客様向けに各種のローンなどを取り扱っていますが、融資先が不幸にも経営不振になったり倒産したりすると、貸出金の回収ができなくなる場合があります。そうなる可能性の高い貸出金を不良債権といいます。

金融機関は、経営の健全性を高めるために、資産の健全度を自己査定によって評価し、それに基づき不良債権の適正な償却や引当をすることが義務付けられております。

当金庫は資産の健全化を経営の最重要課題と位置づけ、厳格な自己査定基準に基づき適正な償却・引当を行うなど、不良債権の一掃を図っております。

２１年３月期の状況

（百万円）

リスク管理債権	金　額
・破綻先債権	1,273
・延滞債権	1,752
・3ヵ月以上延滞債権	—
・貸出条件緩和債権	951
合　　計	3,977

（百万円）

金融再生法開示債権	金　額
・破産更正債権及びこれらに準ずる債権	2,280
・危険債権	754
・要管理債権	951
・正常債権	37,149
合　　計	41,136

金融再生法に基づく不良債権とその保全状況

●金融再生法上の不良債権計　3,987百万円

保全額計　3,635百万円

保全率　91.18%　（3,635÷3,987×100＝91.18%）

中小零細企業に携わる方々や、個人のお客様の円滑な金融を担うことが地域金融機関である信用金庫の最も大切な役割ですから、経済状況によっては、ある程度の不良債権の発生はやむを得ないと考えております。

上のグラフにあるとおり、不良債権合計３９億円のうち３６億円は貸倒引当金（16億円）および担保・優良保証等（19億円）により保全されております。

Q4 投資信託について

A 長引く超低金利と将来受取る年金や退職金に対する不安。このような時代にあってもお金を貯めるだけでなく、殖やすことも大切です。今まで殖やすことに興味がなかった方も確定利付きの預貯金に加え、将来に向けて中長期的な運用に適している投資信託を利用して、バランスのとれた資産作りを考えてみませんか。

- 若いあなたには、将来に備えた資産作りの工夫が大切。
- 働き盛りのあなたには、資産を効率的に殖やす工夫が大切。
- 第２の人生を考えているあなたには、資産をより安全に管理していく工夫が大切。

Q5 キャッシュカード被害について

A 最近キャッシュカードの偽造・盗難により預金が引き出される被害が増えておりますので、お客様におかれましては次の点にご注意ください。

- 暗証番号は、他人に知られないよう、十分注意してください。とくに、暗証番号を記載したメモや暗証番号を推測される手掛りとなるものは、キャッシュカードと一緒に保管しないでください。
- 生年月日、ご自宅の電話番号、自動車ナンバーなど、他人から推測されやすい番号を暗証番号とすることは避けてください。
- 暗証番号は定期的に変更することをお奨めいたします。当金庫のＡＴＭ（現金自動入出金機）で変更が可能です。
- 当金庫以外の金融機関のキャッシュカードを利用される場合には、当金庫のキャッシュカードの暗証番号と同じ暗証番号を利用しないことをお奨めいたします。また、キャッシュカードの暗証番号を貴重品ボックスなど他のサービスを利用する際の暗証番号として使うことは避けてください。
- ＡＴＭ（現金自動入出金機）などを利用されるときは、暗証番号を後ろから盗み見られたりしないようにご注意ください。
- 当金庫職員などが訪問や電話などでキャッシュカードの暗証番号をお尋ねすることはありません。不審な点がある場合には、ただちにお取り引きしている店舗にご照会ください。

Q6 業界全体の健全性について

A 信用金庫の中央機関として運用資産約２６兆円の「信金中央金庫（信金中金）」がバックアップしています。また独自のセーフティー・ネットにより、業界全体の健全性の向上にも努力しています。

- 健全性を維持するために、他の業界には見られない信用金庫独自の安全網を作り上げています。

金融機関の破綻を未然に防止する手立てとして、金融当局による「早期是正措置」がありますが、信用金庫業界では、これに加えて独自の安全網を用意しています。それは、「信金中金」が個々の信用金庫の財務内容等を毎月こまかくチェックし、問題がある場合には改善のための指導や、支援を行う「信用金庫経営力強化制度」です。金融庁の早期是正措置の発動を待たずに、自主的に経営内容を改善するために、業界独自の仕組みを作り上げているのです。

もっと知って ほしい、その実力。 信用金庫と 信金中金。

※信用金庫の数計数は2008年3月末現在のものです。
※信金中金の数計数は2008年3月末現在のものです。ただし、格付は2009年5月21日現在のものです。

信用金庫と信金中金は、手を携えて地域経済の繁栄に貢献しています。

地域経済のパートナー
【信用金庫】

- 豊富な預金量 …… 約115兆円
- 巨大なネットワーク 全国279金庫、7,671店舗
- Face to Faceの事業展開 …… 役職員数11万3千人
- 多数の出資者 …… 931万人

信用金庫のセントラルバンク
【信金中金】

- 運用資産 …… 約26兆円
- 高い自己資本比率（単体） …… 22.78%
- 低い不良債権比率 …… 0.56%
- 高い格付 …… AA+（格付機関JCR）

トピックス 山形大学と連携協力協定締結

地域力連携拠点 ～産学金連携横町～

http://www.sangakukin.com/

平成２１年４月２８日、当金庫は山形大学工学部、山形大学地域共同研究センターと地元中小企業の事業支援のための連携協力協定を結びました。

この連携は、地域密着の金融機関である信用金庫の情報力を活かし、大学の研究技術などを地元企業のニーズと効果的に結び付け、地域産業の新たな取組みや新事業の創出、各種課題解決などを支援するものであり、強力な助っ人役である山形大学への橋渡し役を務めるものです。また、国の新しい小規模企業等の支援メニューの「地域力連携拠点事業」において山形大学の連携機関として採択されたことを受け、経営診断なども含め様々な支援メニューを実行してまいります。

今後の活動としては、①各種セミナーの企画・運営、ビジネスマッチング、相談会の開催　②産学金連携コーディネーターと信用金庫連携による相談窓口の設置　③全国の信用金庫のネットワークを活用した支援等を行っていく予定です。

新庄信用金庫

※より詳しい内容は各営業店に信用金庫法に基づくディスクロージャー誌「新庄信用金庫の現況」を備えつけておりますので、ご覧ください。
ホームページ　http://www.shinjosk.com/

■本店／山形県新庄市本町2番9号　■作成／本部（総合企画室）　☎0233-22-4222　FAX.0233-23-1690